

■ 農民文学で活躍

伊藤 永之介

いとう えいのすけ

出身地 秋田市

1903年（明治36年）～1959年（昭和34年）

『種蒔く人』の影響を受け、東北の農村を舞台に、方言・口語体による独特な説話体の小説を書き、農民文学の代表的作家となる。『農民文学』『社会主義文学』を主宰、農民文学会会長。



年譜

- 1903年 秋田市に生まれる。本名・栄之助。
- 1918年 中通尋常高等小学校卒業。
- 1924年 金子洋文を頼って上京。
『文芸戦線』に、評論「新作家論」を発表。
- 1928年 労農芸術家連盟に入り、文芸戦線派作家となる。
- 1932年 左翼芸術家連盟を結成。機関誌『レフト』創刊。
- 1936年 『梟』を発表。
- 1939年 『鶯』により、第2回新潮社文芸賞を受賞。
- 1952年 『警察日記』『なつかしい山河』を発表。
- 1959年 東京都で没。55歳。